



## 平成22年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年10月29日

上場取引所 東 名

上場会社名 コカ・コーラ セントラル ジャパン株式会社

コード番号 2580 URL <http://www.cccj.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 高橋 顕三

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 杉田 豊

TEL 045-222-5850

四半期報告書提出予定日 平成22年11月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年12月期第3四半期の連結業績(平成22年1月1日～平成22年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第3四半期	149,335	0.5	4,760	136.5	5,271	151.4	2,958	332.6
21年12月期第3四半期	148,538	—	2,012	—	2,097	—	683	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年12月期第3四半期	67.09	67.03
21年12月期第3四半期	15.38	15.38

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭
22年12月期第3四半期	119,841	—	88,180	—	73.5	1,998.85
21年12月期	108,516	—	86,868	—	80.0	1,969.66

(参考) 自己資本 22年12月期第3四半期 88,142百万円 21年12月期 86,846百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年12月期	—	18.00	—	18.00	36.00
22年12月期	—	18.00	—	—	—
22年12月期(予想)	—	—	—	18.00	36.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 有

配当予想の修正については、本日(平成22年10月29日)公表の「配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

### 3. 平成22年12月期の連結業績予想(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	194,600	0.5	4,100	123.1	4,400	102.3	2,000	107.4	45.36

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 有

連結業績予想の修正については、本日(平成22年10月29日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

4. その他（詳細は、[添付資料]P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無  
新規 一社（社名 \_\_\_\_\_）、除外 一社（社名 \_\_\_\_\_）  
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有  
（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更  
① 会計基準等の改正に伴う変更 無  
② ①以外の変更 無  
（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	22年12月期3Q	45,003,495株	21年12月期	45,003,495株
② 期末自己株式数	22年12月期3Q	906,608株	21年12月期	911,513株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	22年12月期3Q	44,095,510株	21年12月期3Q	44,465,209株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信[添付資料]P.3「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	4
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
4. 補足情報 .....	10
販売数量の状況 .....	10

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善により一部の雇用環境に回復の兆しが見られるものの、海外景気の下振れ懸念や急激な円高が、国内景気を下押しするリスクが強まるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

清涼飲料業界におきましては、消費者の節約志向による需要低迷が続いたものの、7月以降の記録的な猛暑の影響による熱中症予防意識の高まり等から、スポーツドリンクを中心に大きく販売を伸ばし、炭酸飲料、紅茶飲料、無糖茶、ミネラルウォーター等、ほぼ全てのカテゴリーで前年を上回り、清涼飲料業界全体の販売数量は、当該連結累計期間において前年を3%程度上回ると推測されます。

このような状況下、当社グループは中期経営計画「Re-birth 2011」において「収益構造改革の実行」を基本方針とし、経営基盤の強化に取り組んでおります。

販売面におきましては、猛暑を背景に特にアケリアスの販売が好調に推移いたしました。また、コカ・コーラ ハッピーサマープロモーション“コカ・コーラをあけて、夏を楽しもう！”をテーマとした売り場作りを通して販売拡大を図りました。ブランド別には植物由来素材を使用した次世代型PETボトル「プラントボトル」を採用した「い・ろ・は・す」において「い・ろ・は・す みかん」を発売する等製品ラインナップを拡大いたしました。また、流行発信的なロケーション・エリアに販売を限定し、ロコミによる伝播を狙った新しいマーケティング手法“インフルエンサー戦略”を用いて展開を図った「グラソービタミンウォーター」の販売拡大や、中京地区でのジョージアの販売強化のため「でら！ジョージア」プロジェクトを推進する等、地域に密着した営業戦略により、積極的な営業活動を展開いたしました。

このような活動の結果、当第3四半期連結累計期間の業績といたしましては、売上高は1,493億35百万円（前年同期比0.5%増）、営業利益は47億60百万円（前年同期比136.5%増）、経常利益は52億71百万円（前年同期比151.4%増）、四半期純利益は29億58百万円（前年同期比332.6%増）となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の資産の部は、1,198億41百万円となり、前連結会計年度末に比べ113億25百万円増加しました。これは主として売掛金や短期貸付金が増加したこと等によるものであります。

負債の部については、316億60百万円となり、前連結会計年度末に比べ100億13百万円増加しました。これは主として前渡金相殺額の減少により、買掛金が増加したこと等によるものであります。

純資産の部については、881億80百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億11百万円増加しました。これは主として利益剰余金が増加したこと等によるものであります。

#### (連結キャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、66億14百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億36百万円増加しました。当第3四半期連結累計期間における活動ごとのキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、主として減価償却費や仕入債務の増加があったこと等により、158億97百万円の収入（前年同期比68億5百万円収入増）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主として有形固定資産の取得や短期貸付金の純増減額あったこと等により、△126億79百万円の支出（前年同期比59億90百万円支出増）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主として配当金の支払があったこと等により、△25億82百万円の支出（前年同期比7億25百万円支出増）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、依然清涼飲料市場における消費環境は楽観視できず、当社グループにとっても厳しい経営環境が続くものと予想されます。

しかしながら、中期経営計画「Re-birth 2011」の基本方針である収益構造改革の実行や、夏場の記録的な猛暑に牽引され、第3四半期連結累計期間における売上高、営業利益は想定を上回る水準となりました。また、通期につきましても、第3四半期連結会計期間の好調な業績により、売上高、営業利益、経常利益ともに想定を上回る見込みとなりましたことから、平成22年8月4日に公表いたしました通期（平成22年1月1日～平成22年12月31日）の業績予想を下記の通り修正いたします。

平成22年12月期通期連結業績予想の修正（平成22年1月1日～平成22年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 189,500	百万円 2,900	百万円 3,200	百万円 1,500	円 銭 34.02
今回修正予想 (B)	194,600	4,100	4,400	2,000	45.36
増減額 (B-A)	5,100	1,200	1,200	500	
増減率 (%)	2.7	41.4	37.5	33.3	
(ご参考) 前期実績	193,595	1,837	2,175	964	21.76

(参考)

個別業績予想は、連結業績と同様の理由により、以下の通り修正いたします。

平成22年12月期通期個別業績予想の修正（平成22年1月1日～平成22年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 169,000	百万円 1,600	百万円 3,000	百万円 1,800	円 銭 40.82
今回修正予想 (B)	173,900	2,800	4,200	2,300	52.16
増減額 (B-A)	4,900	1,200	1,200	500	
増減率 (%)	2.9	75.0	40.0	27.8	
(ご参考) 前期実績	172,279	231	1,008	508	11.47

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ①一般債権の貸倒見積高の算定方法

貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度において算定した貸倒実績率等を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。

#### ②棚卸資産の評価方法

四半期連結会計期間末における棚卸高の算定に関して、実地棚卸を省略し、前連結会計年度にかかる実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。

#### ③繰延税金資産および繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しましては、前連結会計年度末以降の経営環境等、かつ一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,619	5,983
受取手形及び売掛金	18,538	13,958
商品及び製品	5,960	6,234
原材料及び貯蔵品	410	397
短期貸付金	12,214	5,195
その他	7,092	5,692
貸倒引当金	△101	△84
流動資産合計	50,735	37,376
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,950	15,494
販売機器(純額)	14,351	14,259
土地	18,704	18,807
その他(純額)	8,043	9,114
有形固定資産合計	56,050	57,676
無形固定資産	1,235	1,538
投資その他の資産		
その他	12,047	12,204
貸倒引当金	△228	△279
投資その他の資産合計	11,819	11,924
固定資産合計	69,106	71,139
資産合計	119,841	108,516
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	11,843	3,088
未払法人税等	1,909	613
賞与引当金	1,177	—
役員賞与引当金	—	50
その他	10,952	11,067
流動負債合計	25,882	14,820
固定負債		
退職給付引当金	2,588	2,497
役員退職慰労引当金	42	40
その他	3,146	4,289
固定負債合計	5,777	6,827
負債合計	31,660	21,647

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,499	6,499
資本剰余金	24,818	24,819
利益剰余金	58,086	56,715
自己株式	△1,225	△1,232
株主資本合計	88,179	86,802
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△36	43
評価・換算差額等合計	△36	43
新株予約権	37	22
純資産合計	88,180	86,868
負債純資産合計	119,841	108,516

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
売上高	148,538	149,335
売上原価	93,479	92,323
売上総利益	55,058	57,011
販売費及び一般管理費	53,046	52,251
営業利益	2,012	4,760
営業外収益		
受取利息	13	50
受取配当金	21	22
持分法による投資利益	4	288
受取賃貸料	66	90
廃棄有価物売却益	39	66
ソフトウェア受益者負担金	—	51
雑収入	36	52
営業外収益合計	181	622
営業外費用		
支払利息	32	17
賃貸費用	—	32
株式費用	36	33
雑損失	27	28
営業外費用合計	96	111
経常利益	2,097	5,271
特別利益		
固定資産売却益	2	7
貸倒引当金戻入額	—	10
その他	0	3
特別利益合計	2	21
特別損失		
固定資産除売却損	462	424
投資有価証券評価損	68	—
たな卸資産評価損	138	—
地震対策費用	—	137
その他	74	2
特別損失合計	743	564
税金等調整前四半期純利益	1,356	4,728
法人税、住民税及び事業税	789	2,462
法人税等調整額	△117	△691
法人税等合計	672	1,770
四半期純利益	683	2,958

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,356	4,728
減価償却費	8,274	7,278
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	0	△23
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	179	91
前払年金費用の増減額 (△は増加)	568	412
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△59	△50
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△193	2
受取利息及び受取配当金	△34	△73
支払利息	32	17
持分法による投資損益 (△は益)	△70	△288
固定資産除売却損益 (△は益)	460	417
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,803	△4,580
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,100	260
仕入債務の増減額 (△は減少)	70	8,754
その他の資産・負債の増減額	△47	△398
その他	△115	△1
小計	9,716	16,547
利息及び配当金の受取額	83	267
利息の支払額	△32	△17
法人税等の支払額	△647	△898
その他の支出	△26	△1
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,092	15,897
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△6,968	△5,392
有形固定資産の売却による収入	10	70
投資有価証券の取得による支出	△3	△33
投資有価証券の売却による収入	0	3
投資有価証券の減資による収入	1,155	—
短期貸付金の純増減額 (△は増加)	—	△7,000
貸付けによる支出	△623	△161
貸付金の回収による収入	218	120
その他	△478	△286
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,688	△12,679
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	2,000	—
自己株式の取得による支出	△977	△1
自己株式の売却による収入	1	0
配当金の支払額	△1,600	△1,587
その他	△1,279	△993
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,856	△2,582
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	547	636
現金及び現金同等物の期首残高	5,437	5,978
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,984	6,614

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

4. 補足情報

販売数量の状況 (平成22年1月1日～平成22年9月30日)

<パッケージ別販売数量>

(単位：千函、%)

項目	前年同四半期 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)	増減率
リターナブルボトル	850	835	△1.8
ワンウェイボトル	50	48	△4.0
～350ml	4,149	4,153	0.1
～500ml	15,778	17,578	11.4
～1,000ml	987	1,035	4.9
～1,500ml	5,002	5,012	0.2
～2,000ml	11,838	12,188	3.0
ペットボトル計	37,754	39,966	5.9
～160ml	634	601	△5.2
～250ml	9,838	9,133	△7.2
～350ml	3,993	3,516	△11.9
～500ml	394	547	38.8
ボトル缶	1,068	1,170	9.6
缶計	15,927	14,967	△6.0
ポストミックス	17,554	17,657	0.6
シロップ	1,167	1,158	△0.8
パウダー	3,133	2,940	△6.2
カップ計	4,300	4,098	△4.7
その他パッケージ	5,283	5,105	△3.4
合計	81,718	82,676	1.2

※食品は除く

<炭酸・非炭酸、主要ブランド別販売数量>

(単位：千函、%)

項目	前年同四半期 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)	増減率
コカ・コーラ	15,683	16,017	2.1
(内訳) コカ・コーラ	12,175	12,042	△1.1
コカ・コーラゼロ	3,188	3,474	9.0
ノーカロリー他	320	501	56.6
ファンタ	6,665	6,358	△4.6
カナダドライ	1,742	1,801	3.4
スプライト	315	122	△61.3
リアルゴールド	1,100	1,209	9.9
その他	112	124	10.7
炭酸飲料計	25,617	25,631	0.1
ジョージア	13,996	13,661	△2.4
アクエリアス	9,207	11,246	22.1
爽健美茶	6,982	6,293	△9.9
はじめ/綾鷹	3,676	3,353	△8.8
煌	3,254	2,927	△10.0
Qoo/ハイシー	3,510	3,219	△8.3
紅茶花伝	2,567	2,420	△5.7
ミニッツメイド	3,267	3,322	1.7
森の水だより/ミナクア	3,690	4,660	26.3
い・ろ・は・す			
からだ巡茶	655	551	△15.9
その他	5,297	5,393	1.8
非炭酸飲料計	56,101	57,045	1.7
合計	81,718	82,676	1.2

※食品は除く